

報告：原発問題をめぐる全体状況

@第81回脱原発八千代ネットワーク定例会

2019年5月25日 川井康郎

1. フクシマの状況

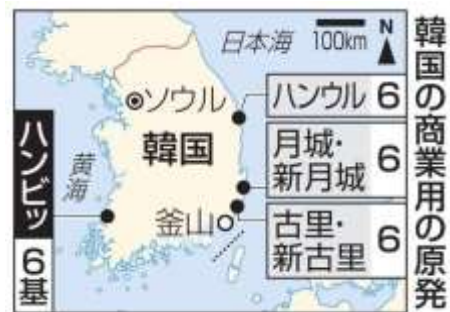
- (1) 5/13、超党派議員連盟「原発ゼロの会」主催で汚染土の処理に関する意見聴取会開催。環境省の再利用案に多くの批判が集まった。中間貯蔵施設での30年間保管・搬出との福島県との約束は保護にされ、膨大な量の汚染土（8000Bq/kg以下）が土木利用されようとしている。
- (2) 5/22 東電は福島第一の廃炉作業で、「特定技能」の外国人労働者受け入れを当面凍結することを発表。厚労省からの慎重な検討を要する通達に応えたもの。
- (3) 経産省は、福島第一汚染水問題に関し、昨年の住民公聴会で多数の要望が出された「タンクでの長期保管」を選択肢に加えることとした。WTOでの敗訴も影響か？
- (4) 5/13 東電は2号機で、デブリ冷却注水の一時停止試験を実施。通常は3トン/hの注水を約7.5時間停止。圧力容器底部の温度上昇は僅かだった。

2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 関電大飯3号機、九電玄海3号機が定期点検中であり。稼働原発は7基
- (2) 浜岡原発に関する静岡県と35市町の首長アンケート（5/22 東京新聞）：再稼働に賛成ゼロ、反対8、その他26。浜岡原発は1,2号機は廃炉、3-5号機は民主党政権の要請を受けて2011.5に停止。現在、3,4号機は新基準適合性審査中。

3. その他のトピックス

- (1) 韓国霊光（ハンピツ）原発1号機で原子炉出力が制限値の5%を超えて18%に達したが、炉の停止は11.5時間後であり、重大事故につながる恐れがあった。韓国安全委員会は1号機の使用停止を命令。韓国では24基の原発が稼働中（総発電量の31%）。文政権は脱原発政策にシフト。



- (2) 5/27に東電・中電の合併会社JERAが計画する横須賀石炭火力（130万kW）の国の認可取り消しを求めて周辺住民が行政訴訟を東京地裁に起こす。
- (3) 4月に県と市の開発許可がおりた鴨川メガソーラー計画（A-スタイル社、約10万kW、250ha）に対し、環境破壊（森林伐採、河川資質悪化等）を懸念する住民側が反発している。

<以上>